



その頃、村では一人の若い娘がなわをかけられ、庄屋につれさられようとしていました。そして、村人は、「親父だけでなく、娘までせでちまなんてむごいごどするもんだ。」、「年貢おさめねがらつて親父せでつて、こんどは娘までなわかけでせで

つた太い大きな丸太をあ  
わててかつぐと、はやて  
のように山道をかけおり、  
とちゆうであつた村人が  
声をかけても、「おらみ  
だんだ。そごさいがねっ  
け!!。」と、ただならな  
い表情で、あつという間  
に、走りさつてしまいま  
した。